ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学　所属：国際看護学部　名前：倉木 文　作成日：2023 年 12 月 14 日

１．教育の責任

老化に加え慢性疾患とともに生きる高齢者の特徴を理解し、高齢者の多様で個別性の高いニーズを把握し、その人の望む自律的な生き方へ安らかな死への援助方策を知り、実践していく能力を養う。

２．教育の理念

国際看護学部の理念である多様性を理解し尊重すること、その視点を看護に活かすことについて一端を担っている。

３．教育の方法

講義では、核家族により関わることが少なくなじみのない高齢者の身体・心理・社会的な変化について、高齢者体験や映像資料などを活用しイメージ化ができ理解が深まるようにした。講義内で解剖生理や病態生理などを復習しながら既習学習を積みかさねていけるようにし、講義範囲に合わせた看護師国家試験問題を用いることで学びの復習となるようにした。

演習では、高齢者看護学実習での実践につながることを意識した。高齢者に多い疾患や病態を踏まえ、高齢者としての体験、援助者としての体験をリフレクションすることで、看護援助を実践するときの改善点・留意点などを学生間で考え深められるようにした。

実習では、生活の場における高齢者とのかかわりから、これまでのライフヒストリーを踏まえて高齢者の価値観や生活習慣を尊重することや心身の機能障害とともにある高齢者の豊かさに、学生が気づき理解を深めるように支援を行った。また、病院での実習においては、疾患治療中の高齢者への退院後の生活を見据えた、持てる力を引き出しながら環境調整を行う援助方法について学生が考え実践できるように支援した。

４．教育の成果

実習では、実際に 60 歳以上の年齢差のある高齢者や認知症などにより言語的コミュニケーションが難しい高齢者とのかかわりに戸惑う学生がいたため、講義・演習での学びを思いだし応用できるように関わりの見本を実践して見せることで、援助方法の理解や実践につなげた。また、時代背景や生活背景の多様さについては、それぞれの学生の対象者について共有することで実際の対象者を通して理解を深められるようにした。机上の学習での高齢者理解を実習での経験を通して、一人の人として理解することにつなげることができたのではないかと考える。

５．改善への努力と今後の目標

学生個々の理解度に合わせた実習での指導が十分にはできなかったので、実習早期の段階から理解度を図り指導できるようにしていくことが課題である。

【添付資料】

なし